

令和6年度 佐賀県農業大学校 評価表(計画)

資料 4

	〇 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 〇 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	○達成度 A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満~80以上) C:やや不十分である(80%未満~60%以上) D:不十分である(60%未満)
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実	

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1	○受験者数	・受験者30名以上	・農大の情報の発信 ・各機関・団体への周知 ・農業系高校等との連携強化	・ホームページを概ね毎月1回更新。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施。 ・広報紙「緑旗」の発行、新聞等広報媒体への情報提供。 ・これまでに入学者がいる県内高校を訪問して募集要項を配布。 ・JAバンク佐賀提供のラジオ番組で学生募集を告知。 ・報道62社にメールにてプレスリリースし、学生募集告知を依頼。 ・農業振興センターの広報誌に学生募集の記事掲載を依頼。 ・県広報誌に、学生募集の記事掲載を依頼。 ・高校向けの募集説明会の開催。 ・農業系高校を中心に進路ガイダンスに参加。 ・同窓会会員に学生募集のPRを依頼。 ・農業系高等学校長との連絡協議会の開催。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催(再掲)。 ・農業系高校へ出張講義を実施。 ・農高生の農大施設見学受入を実施。 ・未来さが農業塾の生徒と農大生との交流を実施。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な 入学者の 確保	○オープンキャンパスの 参加数	・オープンキャンパス 参加者40名以上	・農業系高校等との連携強化 ・農大の情報の提供 ・各機関・団体への周知	・これまでに入学者が少ない県内高校を訪問し、オープンキャンパスをPR。 ・農業系高等学校長との連絡協議会の開催。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催。 ・オープンキャンパスの開催。 ・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施。 ・JAバンク佐賀提供のラジオ番組でオープンキャンパスを告知。 ・ホームページの概ね毎月1回の更新。 ・農産物直売や講義・実習等週1回の撮影を実施。 ・報道62社にメールにてプレスリリースし、オープンキャンパス告知を依頼。 ・農業振興センターの広報紙にオープンキャンパスの記事掲載を依頼。 ・県広報誌に、オープンキャンパスの記事掲載を依頼。			
2 高い技術 力や経営 力の習得	【施設野菜】 ○栽培技術の習得 ・IoT機器を活用した栽培管理技術の習得 ・化学肥料のみに依存しない栽培管理技術の習得 ○経営能力の向上	・IoT機器が活用できる学生の育成 100% ・持続可能な農業を 実践できる学生の育成 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導 ・施設野菜における持続可能な農業を実践	・毎朝の観察と作業日誌記録によって、観察に基づいた管理の意識付けを指導実施。 ・環境測定機器の取り扱い方法の指導実施。 ・温湿度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通じて指導実施。 ・週間天気予報を活用した環境設定の指導実施。 ・みどりの食料システム戦略の考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。			
	○経営能力の向上	・担当する品目の所得の把握ができる 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理 ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を実施し、課題の進捗状況を把握し、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施。 ・プロジェクトで取り組む野菜品目での収量・品質・経費等の記録指導。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいて、所得を算出させる。			
	○GAPの実践を通じたよりよい施設園芸の実践	・GAPを実践できる学生の育成 100%	・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 ・先端技術を活用した管理技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導 ・先進技術を活用した管理作業の指導	・露地野菜の基礎的な生理生態、基礎知識と管理技術の指導。 ・一連の作業を説明、実践し、管理・観察日誌等で理解度を確認。理解度に応じた指導を実施。 ・担当品目の決定と作付け計画、実践の指導。 ・所得率、作業性などの経営評価の実施。 ・タマネギの機械化一貫体系の実践と技術習得。			
	○GAPの実践を通じたよりよい露地野菜栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成 100%	・露地野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			
	○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得	・一連の作業を機械で操作できる学生の割合 100%	・農業機械の操作指導 ・農業機械の作業点検方法の指導	・トラクター、防除機、管理機等の操作実習の実施。 ・機械等の点検の実施。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【農産】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得 ・スマート水田農業機械の操作習得	・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・スマート水田農業に関する知識の習得 ・スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導	・米・麦・大豆の基礎的な生理生態、基礎知識の指導とその確認のため実習試問による理解度の把握。 ・米・麦・大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を解説し、実践させ、後日、質疑や作業日誌等で理解度を把握。 ・GPSトラクターの取り扱い方法の指導実施。 ・GPS田植機の取り扱い方法の指導実施。 ・GPS収量コンバインの取り扱い方法の指導実施。 ・農業用ドローンの取り扱い方法の指導実施。			
	○農業機械の基本操作と維持管理の習得	・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%	・農業機械の操作指導 ・作物栽培と連動した機械作業の習得指導 ・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催	・大型特殊(農耕車)免許および、けん引(農耕車)、フォークリフト免許の全員取得。 ・農業機械の基本操作及び圃場作業の手順を整理させる。 ・専攻内で機械操作ポイントを意見交換する場を設け、操作スキルの向上を図る。			
	○GAPの実践を通したよりよい米・麦・大豆栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成 100%	・作物の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を実習内の座学、実践で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
高い技術力や経営力の習得	【果樹】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 ・最新の栽培技術の講義および指導 ・県育成品種「佐賀果試35号」等の新品種栽培技術の指導	・各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づき及び感想を整理させ習熟度を確認。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫体制を指導。 ・ハウスマカンの卒論課題については、果樹試験場と連携し課題解決の方策を指導。 ・温州ミカン「佐賀果試9号」や「佐賀果試35号」の技術習得のため、プロジェクト課題としてより深く課題解決に取り組む。			
	○スマート農業に関する知識の習得	・到達した学生の割合 100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得 ・省力栽培技術の習得	・温州ミカン根域制限栽培、ブドウ根域制限栽培及びナンシ低樹高ジョイント栽培圃場のAIによる肥培管理システムを利用した栽培管理法についてプロジェクト課題としてより深く課題解決に取り組むよう指導。 ・ロボット草刈り機およびスピードスプレイヤーを導入し、効率的な圃場管理作業を習得させる。			
	○経営能力の向上 ・果樹経営特性の理解 ・GAP継続審査	・到達した学生の割合 100% ・R6継続審査適合	・果樹経営特性の理解 ・引き続きGAPに取り組むとともに、継続審査に必要な作業を実行する	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導。 ・市況や統計資料等と記帳結果と比較して、担当圃場での問題点を整理し改善策を検討。 ・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経営改善点を整理。 ・記帳や整理整頓を実践するとともに、学生に対して必要な知識向上のための学習を実施。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【花き】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得	・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得した学生の割合 100%	・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術習得 ・作業日誌の記帳確認 ・新規品目作付けへの取り組み ・農業技術防除センターや農業試験研究センター等からの卒論プロジェクト課題に関する情報提供等の支援	・主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識及び栽培技術の習得。 ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説、実践。後日試問や作業日誌等での理解度の確認。理解度に応じた個別指導。 ・新規品目作付けのため知識習得及び切り花品質向上と開花調節への取り組み。 ・関係機関（農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業振興センター）と連携し、卒論課題は地域課題解決を設定する。			
	○花きの品質保持及び6次産業化の加工についての技術習得、流通及び販売知識の習得	・品質保持及び加工技術の習得した学生の割合 100%	○収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなどの加工技術の習得 ・加工品目の市場評価	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術の取得。6次産業化の取り組みとして、加工（染色、フラワーアレンジメント、加工品）等の技術取得及び、直売や収穫祭を通して消費動向調査。 ・加工した切り花の市場評価。			
	○GAPの実践を通じたよりよい花き栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成 100%	・花きの実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【畜産】 ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得	到達した学生の割合 100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・繁殖牛発情観察記録表への記入させる。 ・繁殖牛の分娩前観察及び分娩介助を実施。 ・家畜人工授精師資格取得向け、知識と技術の習得。 ・家畜人工授精の実施。 ・ICT機器活用による繁殖牛の管理の実践。			
	○家畜栄養の学習	到達した学生の割合 100%	・飼料給与技術の習得 ・各畜種（乳牛、種雄牛、豚）の飼料給与技術の習得	・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践。 ・発育状況把握のための毎身体測を実施。 ・子牛の発育状況などを確認させるため、子牛セリに参加。 ・畜産試験場での実習実施（30回／年以上）。			
	○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習	到達した学生の割合 100%	・糞尿の堆肥化处理技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 ・堆肥の散布技術の習得	☑ 堆肥舎での関連作業機械を操作した堆肥化处理技術を習得させる。 ・畜産試験場での実習時に学習させる。 ☑ ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業実習の実施。			
	○飼料作物栽培の学習	到達した学生の割合 100%	・飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物を栽培し、生育状況の観察させる。 ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する実習実施。 ・飼料作物収穫後再生させ複数回の収穫作業実施。			
	○管理能力の向上	到達した学生の割合 100%	・GAPIに関連した知識の習得	・GAPIに基づいた記帳や整理整頓を実践し管理環境を改善させる。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工の基礎知識及び加工技術の習得	・農畜産加工の基礎知識及び加工技術を習得した学生の割合100%	・野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 ・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施	・穀類・野菜・果実・畜肉等を使用した商品を製造し、それぞれの食品の特徴について理解を深め、加工技術を習得させる。 ・シーラー機やオープン、レトルト機、急速冷凍、蒸気回転窯等の加工に必要な機材の操作させる。 ・商品の1次加工、2次加工をさせる。			
	○商品づくりの基礎知識の習得	・商品づくりの基礎知識を習得した学生の割合100%	・商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	・農大の直売会の準備から販売を経験させる ・製造した食品の適切な扱い、管理を指導する。			
	○衛生管理の基礎知識の習得と実践	・食品衛生についての基礎知識を習得し、商品の製造、管理において適切な扱いができる学生の割合10	・清掃指導や法律に準じた加工品の製造方法に関する演習の実施	・食品衛生法やHACCPについて講義で取り上げ、食品衛生についての基礎知識を習得させる。 ・清掃マニュアルを作り、徹底した清掃指導をする。			
	○商品の企画、製造、販売	・収益性を考えた商品の企画、販売を1品目以上行う	・農産加工研究会への指導 ・直売での販売動向の把握及び分析	・学生の提案をもとに、オリジナル商品を製造し、直売等で販売する ・販売動向を把握し、分析する			
	【資格等の取得向上】 ○カリキュラムの中で必要な資格取得	資格合格率100% ※大型特殊免許、けん引免許等 選択性の資格の合格率50%以上 ※農業技術検定、危険物取扱者、フォークリフト、狩猟免許等	・研修の充実	・必須の免許・資格の取得 ・農耕用大特免許 ・農耕用けん引免許 ・選択性の免許・資格の取得状況 ・農業技術検定2級 ・農業技術検定3級 ・危険物取扱者 ・毒劇物取扱者 ・フォークリフト ・小型車両系建設機械 ・狩猟免許 ・合格レベルに達しない見込みの者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施。 ・資格や免許に対応した特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施。			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての学生の進路決定	○就農・就職決定率	・就農・就職率 100%	・就農・就職指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の出身地域の枠を超え、農業法人とのマッチングを考慮して、先進農家派遣研修を実施。 ・進路指導専任職員(会計年度職員)の配置。 ・1年生、2年生を対象にキャリアプランニングの講義を実施し、早い段階からの進路指導を強化。 ・ハローワークとの連携、求人情報の提供。 ・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施。 ・就農準備資金の制度活用支援。 ・若手農業者との意見交換会の開催。 			
4 農業者研修の充実	○大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	・免許合格率:95%以上	・受講生がより理解しやすいよう指導方法を工夫特に、高齢者に対応した操作技術の取得方法	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の研修体制を継続し、受講生が理解しやすい指導方法の実践を図る。 ・高齢者など技術取得が遅れる受講生に対しては、職員間で情報共有を図り、連携して指導に当たり、必要があれば補修を行うなどして対応する。 			
	【農産加工支援研修】 ○受講者数	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数の確保 1講座 10組 ・受講生の理解度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知 ・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・振興センター、農業経営課、さが農村ビジネスサポートセンター等と連携したチラシ等を用いた受講生の募集 ・農大HP等を活用した情報提供 ・農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施 ・先進地視察研修 ・受講後のアンケート調査の実施 			
	○農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	・研修に対する満足度 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・参加後の聞き取り調査等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員理事会、各部会会議 ・70周年記念大会実行委員会 ・農業青年会議 ・さが農業力向上セミナー ・農業青年冬季のつどい ・九州、全国の活動への参画 ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。 			

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業 者 研 修 の 充 実	○農業者組織(青年農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	・青年農業士を対象に各種研修会の開催 (参加しやすさを考慮して企画) ・参加者へのアンケート調査実施	・各種研修会 ・農業士との合同研修の開催 1回 ・先進地事例調査、の実施 1回 ・県外研修への派遣 2名程度 ・研修後に参加者へのアンケート調査を実施。			
	○農業者組織(農業士)活動の活性化	・組織活動の活性化 や研修に対する満足 度の向上 やや満足以上の割合 80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催 (できるだけ多くの農業士が参加できる内容に する) ・参加後の聞き取り調査等の実施	各種会議の開催 ・役員会議 4回 ・佐賀県内JA代表者との意見交換会 ・県農政関係課長との意見交換会 各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会 ・さが農業女子サミット ・佐賀県・長崎県農業士合同研修会 各部会活動の実施(7部会) 各種研修会会議への参画 ・全国農業担い手サミットinさが実行委員会・幹事会 ・九州・沖縄農業士研修会 ・指導農業士全国研究会 ・九州農政局幹部と九州・沖縄各県指導農業士との 意見交換会 ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。			